

平成28年度 学校評価報告書(総表)

平成29年6月30日

| | | | |
|-------------|---|-----|-------|
| 1 学校の概要 | | | |
| 学校名 | 筑波大学附属坂戸高等学校 | 校長名 | 田村 憲司 |
| 幼児・児童・生徒数 | 483 | 学級数 | 12 |
| 2 教育目標等 | | | |
| ① 学校教育目標 | 普通教育及び専門教育を総合的に施すことによって、社会の変化に対応しながら生涯を通じて主体的に学び続ける資質や能力を身につけさせ、社会の進展や科学技術の進歩に対応し、持続可能な社会の創造とその発展に貢献できる人間を育成する。 | | |
| ② 学校経営方針 | 本校は総合学科教育の使命を果たすため、社会の要請に即した教育のあり方を研究し実践することを学校運営の柱とし、学校改編以来キャリア教育の実践と研究を続けてきた。 今後さらなる充実を目指して、現行体制の改善を図り新しい教育体制の充実を求めていく。そのために、進路指導、生徒指導、学習指導、その他各学年団等による生徒への指導など、全校共通意識のもと、よりよい指導方法を常に模索し続ける。また、今年度より新たに第3期中期目標・中期計画期間に移行するのに伴い、グローバル人材育成とインクルーシブ教育を柱とした方針を立てて進めていく。 | | |
| ③ 重点目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・SGH3年目としての計画実践 ・SGH関連科目の開発と実践 ・1年次新校外学習の試みと充実 ・IB導入に伴う諸整備と研修 ・校舎改修・施設設備の充実 ・大学と連携した共同研究実践 ・高大院の接続に関する研究 ・総合学科,SGH研究大会の開催と成果発信 ・オリンピック・パラリンピック教育の更なる実践と成果発信 | | |
| ④ 前年度の成果と課題 | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SGH2年目の成果を発信し、国内外と連携を深めた。 ・生徒主体の国際ESDシンポジウムが充実した。 ・IBの候補校として、ハード面ソフト面の整備を進めた。 ・多目的交流棟を有効利用した。 ・高大院連携プログラムの実現に向けて取り組んだ。 ・入試制度と新教育課程の実施と改善を進めた。 ・総合学科20年の成果と検証結果を発信した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高大院の接続に関する研究の高度化。 ・校舎改築の実施と施設設備の更なる充実。 ・日本語DP導入に向けて諸課題の解決。 ・グローバル人材育成のための資金調達。 ・支援教育体制のさらなる充実と合理的配慮への理解。 ・オリンピック・パラリンピック教育を軸とした交流の充実。 | | |

3 重点目標達成についての総括的評価

本校は、総合学科の先進校としてこれまで20年間、キャリア教育に関する数々のプログラムを開発し、国内の総合学科高校を始め、キャリア教育を実践する機関から高い評価を得てきた。第2期の後半からは、アジアでのグローバル人材育成に関する実践的な研究を始めた。平成26年度にはスーパーグローバルハイスクール(SGH)初年度校として再スタートし、国内外から注目される学校になりつつある。平成28年度からの第3期中期目標・中期計画が始まるにあたり、本校は次の各項目について、総合学科の知見を生かした教育実験を推進していくことを主要な課題とした。

- (1)SGHを核としたグローバル人材育成プログラムの3～5年目にあたる第3期には更なる充実と完成が期待される。今年度は上位2番目の高評価を得ることができた。
- (2)大学執行部からは、教育研究科と連携し国際バカロレア日本語ディプロマプログラム(IB日本語DP)のシステムを開発していくことが期待されている。今年度は計画通り認定校となった。
- (3)大学と附属学校が連携して実施するオリンピック・パラリンピック教育を軸とした協働学習を推進していくことが新たな課題である。今年度は、大塚特別支援学校との連携をはじめ、インクルーシブ協働学習が充実した。
- (4)全国的に教育を先導する学校群(クラスター)として附属11校をとらえ、「筑波型インクルーシブ教育システムを目指したプログラム」が提起された。

4 来年度の学校課題

- ・新しい総合学科の在り方の検討
- ・組織的なSGH活動とその後の検討
- ・高大連携に関する研究の継続
- ・IB導入後の新教育課程の検討
- ・仕事の精選と合理化
- ・オリンピック・パラリンピック教育実践と成果発信の継続

5 学校課題に向けての具体的な取り組み

- ・IBが導入され、限られた予算と人員の中で新しい総合学科をクリエイティブしていくために企画運営委員会で検討し、全職員に共有を図る。
- ・SGH推進委員会が中心となり、各小委員会がそれぞれの活動を推進する。
- ・高大連携に関する研究を引き続き推進する。
- ・IB生の入学後の教育課程についての検討を継続する。
- ・総合的な見地から、分掌・委員会の見直しを行い、再構成を図る。
- ・オリンピック・パラリンピックについて効果的な発信を図る。